

## 平成22年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	県北地域における小ぎく7月咲品種による8月盆出荷向け栽培法						
[要約] 県北地域において、7月咲品種を親株のトンネル被覆無しで管理し、5月中～下旬に定植することにより、8月盆向け出荷が可能である									
キーワード	7月咲品種	5月中・下旬定植	8月盆向け出荷	開花調節	県北農業研究所 園芸研究室				

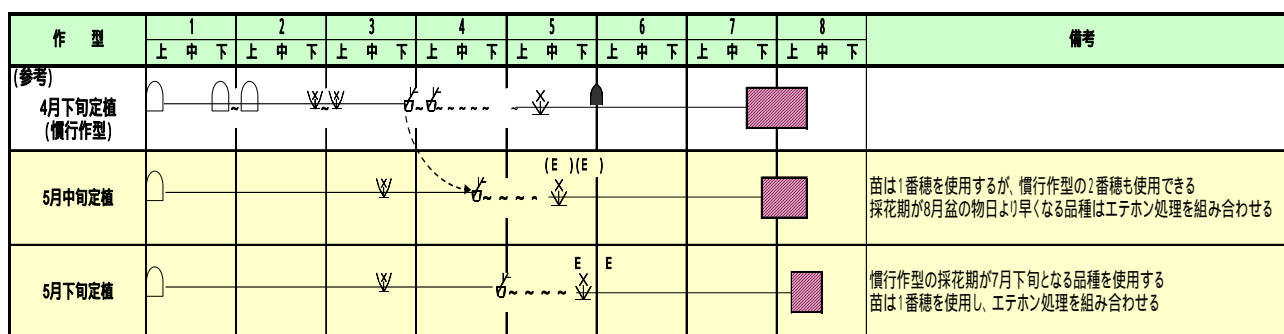
### 1 背景とねらい

県北地域では、小ぎくの慣行作型(4月下旬～5月上旬定植)により8月盆向けに出荷を行うために、定植後にトンネル被覆を行い、遅霜や初期生育促進の対策を講じている。このため、県南地域に比べ資材やトンネル管理等の負担が大きいことから、生産拡大を図る上で課題となっている。

そこで、定植後のトンネル被覆を行わず8月上旬出荷が可能な省力的な栽培法について明らかにする。

### 2 成果の内容

(1) 県北地域における小ぎく7月咲品種を使った8月盆出荷向け作型は図1のとおりである(図1,2、表1)。



□:ハウス被覆 □:トンネル被覆始 ▲:トンネル被覆終了 ∇:親株摘心 ♀:挿し芽 定植 X:摘心 ---:育苗期間 E:エテホン処理 ■:採花期

図1 7月咲品種を用いた8月盆出荷向け作型

### 3 成果活用上の留意事項

- (1) アイマムパープルレッド 及び まどか を使って得た結果である。他の品種については、現地において各作型への適応性を検討した上で導入する。
- (2) 5月中・下旬定植の作型では親株のトンネル保温管理が不要であるが、親株摘心後に凍害の恐れがある場合は、べた掛け等の保温対策を講ずる。
- (3) 5月中旬定植の作型において慣行作型由来の2番穂を使用する場合は、早期着蕾や短茎化の原因となるので、1番穂採穂後の親株を高温管理しない。
- (4) 5月中・下旬定植の作型における定植後のトンネル被覆は不要であるが、霜害の恐れがある場合は不織布等によるべた掛けや定植日を数日遅らせるなどの防霜対策を講ずる。

### 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地域又は対象者等 県北地域における小ぎく栽培を指導する普及員等指導者
- (2) 期待する活用効果 県北地域における8月盆出荷向けの安定生産技術導入の際の参考となる

### 5 当該事項に関する試験研究課題

(H19-53) 県北地域における小ぎくの安定生産技術の確立 [H19～H22/県単]

### 6 研究担当者 川戸善徳

### 7 参考資料・文献

- (1) 平成10年度 試験研究成果「岩手県県北沿岸地域でのお盆向け小ぎくの品種と栽培方法」
- (2) 平成13年度 試験研究成果「夏秋ぎく系小ぎくの親株加温による作期の前進」
- (3) 平成16年度 試験研究成果「小ぎく「アイマム」シリーズに対するエテホン処理による開花調節効果」
- (4) 平成19年度 試験研究成果「小ぎく「アイマム」シリーズに対する簡便な作期遅延技術」

## 8 試験成績の概要 (具体的なデータ)

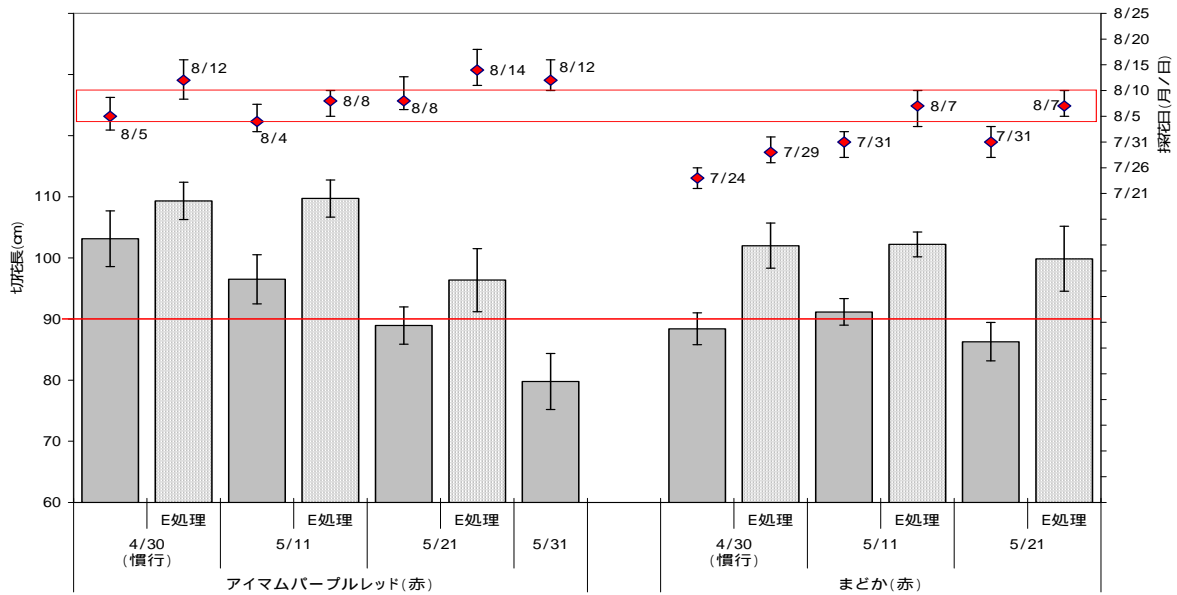


図2 定植時期の違い及びエテホン処理の有無と採花期及び切花長の関係 (H20, 21, 22)

(注) E処理はエテホン処理を示す。図中のエラーバーは切花長が標準偏差、採花日が採花期間(始期~終期)を示す。  
アイムパープルレッド はH20~22年の平均。ただし、5/11 (E処理あり)はH22のみ、5/21 (E処理あり)はH21,22の平均  
まどか は4/30はH20のみ、5/11,5/22はH22のみ

### [ 摘要 ]

アイムパープルレッド は5/11定植では8月2半旬に90cm以上の切花長を確保できる。5/21定植では採花期が8月2半旬となるが切花長は90cm前後、エテホン処理により90cm以上の切花長を確保できるが採花期が8月3半旬となる。まどか は5/11,5/21定植ともエテホン処理により8月2半旬に90cm以上の切花長を確保できる。

表1 切り花品質 (H20,21,22)

品種名	定植時期 (月/日)	採花日 (月/日)	切花長 (cm)	葉数 (枚)	切花重 (g)	茎径 (mm)	側枝数 (本)	栽培期間 (日)	備考
アイムパープルレッド (赤)	4/30(慣行)	8/5	103 ± 5	41 ± 2	65 ± 16	5.4 ± 0.5	14 ± 2	97	H20,21,22
		E処理 8/12	109 ± 3	49 ± 2	64 ± 15	5.2 ± 0.5	14 ± 2	104	H20,21,22
	5/11	8/4	97 ± 4	39 ± 2	59 ± 12	5.3 ± 0.4	14 ± 2	86	H20,21,22
		E処理 8/8	110 ± 3	42 ± 1	53 ± 5	5.1 ± 0.3	14 ± 2	89	H22
	5/21	8/8	89 ± 3	35 ± 1	47 ± 10	4.9 ± 0.4	12 ± 1	79	H20,21,22
		E処理 8/14	96 ± 5	45 ± 2	48 ± 11	4.6 ± 0.5	13 ± 2	85	H21,22
まどか (赤)	4/30(慣行)	8/12	80 ± 5	31 ± 2	41 ± 8	4.7 ± 0.4	12 ± 2	74	H20,21,22
		E処理 7/24	88 ± 3	36 ± 3	63 ± 10	6.3 ± 0.4	9 ± 2	78	H20
	5/11	7/29	102 ± 4	48 ± 3	89 ± 22	6.7 ± 0.8	10 ± 1	83	H20
		E処理 7/31	91 ± 2	37 ± 3	44 ± 4	5.1 ± 0.2	9 ± 2	75	H22
	5/21	7/31	91 ± 2	37 ± 3	44 ± 4	5.1 ± 0.2	9 ± 2	75	H22
		E処理 8/7	102 ± 2	53 ± 2	43 ± 7	4.8 ± 0.4	9 ± 1	82	H22
5/21	7/31	86 ± 3	34 ± 4	38 ± 10	4.9 ± 0.4	9 ± 3	65	H22	
	E処理 8/7	100 ± 5	52 ± 2	50 ± 16	5.0 ± 0.5	11 ± 2	72	H22	

(注) 農作物調査基準(岩手県農業研究センター、平成14年3月)による。±は標準偏差  
採花日は盛期日(50%到達日)、栽培期間は定植から採花までの日数

摘要: 定植が遅くなると切花重や茎径などが低下し、ボリューム低下する傾向が見られた

### [ 供試条件 ]

調査場所: 県北農業研究所場内圃場(標高230m)

親株管理: ハウス+内張り+トンネルの3重被覆(2月初旬開始)を行い、4月以降はトンネル除去、5月以降は内張除去。  
ただし、H22年のまどか は内張り+トンネルなし。

挿し芽: 200穴黒色マルチ(培土; レイア-ソ-ライト)に1本/穴挿し。

アイムパープルレッド は、4/30及び5/11定植は1番穂、5/21及び5/30定植は2番穂を用いた。

まどか は全て1番穂を用いた。

施肥量: 窒素成分で10kg/a (H20,22) 12kg/a(H21)

栽植距離: 45cm×8cm、2条植え 3本仕立て(無摘心作型は3本を寄せ植え) 黒マルチ使用

エテホン処理: エテホン液剤「商品名; エスレル10」の500倍希釈液(ethephon 200ppm溶液)を茎頂部に噴霧した(摘心時と10日後の2回散布)